

所属・資格 教育学科・教授

申請者氏名 日暮 トモ子

研究課題	中国の新義務教育課程基準（2022）におけるカリキュラム構成原理の特徴の分析
報 告 の 概 要	<p>中国の新義務教育課程基準（2022）の特徴として、キー・コンピテンシーに基づく教育内容の再編がある。従来のような知識の羅列ではなく、内容を精選し、冗長性を取り除き、知識内容を構造化して提示することに重きがある。具体的には、プロジェクト学習やテーマ型学習など、各教科内容の有機的な繋がりを重視した、知識と実践を結びつけた、教科横断的で総合的な活動を取り入れることを強調している。</p> <p>こうした新課程基準にみられる理念や教育内容が学校現場でどのように実践されているのか、実践上の課題はどこにあるのか。これらの点を明らかにするために、2022年版の課程基準におけるカリキュラム構成原理の特徴を把握することが、本研究の目的である。この目的のために、まず、新課程基準の内容を、①教育目的・目標、②内容編成、③指導方法と評価に分け、それぞれの特徴を分析する。その上で、実際の学校現場での教科横断的な学習活動などの活動の実施状況及び実践上の課題を分析し、新課程基準にみられるカリキュラム構成原理の特徴を考察する。</p>
報 告 の 概 要	<p>中国の義務教育課程の基準については、国（教育部）が定め、それをもとに各省・自治区・直轄市が地域の状況に基づいて地域内の基準を作成している。国は教育課程の基準として、教育課程の全体計画（原語：課程方案）と各教科内容の基準（原語：課程標準）を作成しており、義務教育段階の場合、2022年に公表された基準が最新版（以下、2022年版）である。</p> <p>2022年版の義務教育段階の教育課程基準は、内容の精選、各教科間の連続性や段階性、知識学習と体験学習を結びつけた知識の構造化、コンピテンシーベースに基づく能力目標の設定などを意識して編成されているところに特徴がある。その教育課程全体の目的・目標としては、創造性や実践能力の育成に重点を置いた、子どものもつ様々な資質を伸ばす「素質教育」の推進を通して、理想、能力、責任感をもった徳・知・体・情操・労働（労働観・労働精神）の全面に発達した社会主義事業の建設者及び継承者を育てることにある。この目的・目標に従前の教育課程基準からの大きな変更はなかった。</p> <p>一方、各教科の目標及び児童生徒に身につけることが求められている内容の示し方については、従前の教育課程基準と異なっていた。当該教科で身につけることが求められる力を「コア・コンピテンシー」（原語：核心素養）として提示した上で、9年間の義務教育課程全体を見通した全体目標と学年段階別の目標を定めているところに大きな変化がみられた。また、各教科の内容の基準では、学年ごとに扱うべき内容、それに対応させて身につけることが求められる能力、そのための指導方法を明確に示し、「指導－学習－評価」の一体化が目指されていた。さらに、各教科の内容では、児童生徒の経験や社会生活との関連に重視しながら教科間のつながりなど内容の構造化を図るために、テーマ、プロジェクト、タスクを用いて内容を組織的に編成する方法を取り入れていた。そこでの評価は、児童生徒の探究活動の中での表現や振り返り、活動の過程で作上げた成果物を用いるなどのパフォーマンス評価が重視されていた。</p> <p>例えば、義務教育段階の中国語のカリキュラムの基準でも、中国の伝統文化の学習や社会主義の先進文化の学習を教科学習の主題として掲げ、それに関連する内容を段階的に「基礎学習群」→「発展学習群」→「開拓学習群」の三つの大単元（大概念。ビックアイデアに相当）に分けて示していた。開拓学習群では、教科横断学習を一つの単元として設定し、プロジェクト学習や問題解決学習に取り組むようデザインされているところに特徴がみられた。</p>

<p style="text-align: center;">研 究 の 考 察 ・ 反 省</p>	<p>今回、中国の教育課程の基準とともに北京市・上海市の教育課程の基準、さらに各教科の事例として中国語のカリキュラムの基準を取り上げ、政策文書、先行研究、現地での聞き取りから、そのカリキュラム構成原理の特徴を捉えるようにした。さらに、中国の教育課程基準の内容を相対的に捉えるために、マカオの教育課程の基準についても合わせて調査を行った。</p> <p>その結果、上述のとおり、中国の教育課程の基準は、従来の知識中心のカリキュラムの構成から大きく変化し、教科学習はビックアイデアを中心に構成され、さらに、教科横断学習やプロジェクト学習などを取り入れることで、内容の構造化や知識の構造化を図ることが目指されていた。こうした教育課程改革の方向性は日本とも類似する点が数多い。その理由として、両国ともに、国際学力調査等の影響を受けながら改革を進めてきたことが一因にあると考えられる。同じく国際学力調査で上位に位置づくマカオの教育課程について調査も行ったところ、カリキュラム・フレームワーク（2014）とカリキュラム・ガイドライン（2016）が、さらに、学業到達度のスタンダード（2015）が策定されており、国際学力調査の結果を強く意識した改革が進められていることが明らかとなった。</p> <p>北京市・上海市の教育課程基準については、国の基準の内容に則って地域内の基準が設定されていた。上海市について言えば、これまで教育課程改革の実験地域として独自のカリキュラムを編成してきた経緯がある。しかし、2022年に国の義務教育課程基準が公表されたことで、上海市の課程基準（2024）も国の基準と同じ内容構成に改められていた。なぜ歩調を合わせるようになったのか、その変化の理由についての考察は今回行うことができなかった。</p> <p>また、2022年版の義務教育課程の基準の内容が現場でどのように受け止められ、実施されているのかについて現地の教員に対して聞き取りを行った。その結果、2022年版の課程基準の内容について地域や校内で研修が複数回実施されており、それについての理解は一定程度あり、プロジェクト学習や教科横断学習についても実施に当たり特段問題は生じていないとのことだった。しかし、実際の授業等を観察することが今回できなかったため、その実証的な検証は行えていない。より詳細な調査・分析が今後の課題として残された。</p> <p>以上、学力向上と教育格差是正を目指し、卓越性と公平・公正をどう実現していくかが中国の義務教育段階の教育課程改革のポイントとなっていた。そのための手法としてカリキュラム改革を進めていることが明らかとなった。だがその一方、国内のスタンダード化が進み、カリキュラム内容に当該地域の独自性や特色が反映されにくくなってしまう可能性も否めない。今回、2022年版の課程基準で重視されている教科横断学習の内容の学校現場での受け止め方や実践方法、また、地域の特色を踏まえて内容が設定されるテーマ学習やプロジェクト学習、総合実践活動での活動内容などについては、十分に考察を深めることができなかった。今後継続して調査研究を進めたい。</p>
<p>研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所</p> <p>研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者</p>	<p>※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。</p> <p>研究発表 学会名：日本比較教育学会第60回大会 発表テーマ：返還後のマカオの学校教育－学力政策に着目して－ 年月日/場所：2024年6月29日/名古屋大学</p> <p>上記のほか、中国の教育課程の改革動向の特徴をまとめた論考を、国立教育政策研究所の調査研究プロジェクト（「新たな学びの実現に向けた教育課程の在り方に関する研究」）の報告書において公表予定である（2025年3月末）。</p>